

平成22年8月（60回）彦機会幹事会の記録

お盆を過ぎててもこれでもかの酷暑が続く毎日、パナソニックリゾート大阪に着いてビックリ、今日から6日間全館休館とは、どっと噴き出す汗・汗……。内片副会長の奔走で近くの喫茶店が確保でき、急遽そこでの幹事会となった。「言うまいと 思えど 今日の暑さかな」一詠み人知らずー

<記>

- (1) 日時 : 平成22年8月22日(日) 10:00~11:20
(2) 場所 : パナソニックリゾート大阪近くの喫茶店
(3) 出席者 : 吉田会長、内片副会長、松下副会長、立入副会長、藤田常任幹事、國領常任幹事
藤浪
(欠席の連絡者: 田頭・西澤顧問、山田・山添・杉本・広岡常任幹事、)

(4) 議事内容

配布資料: 山根 浩二 県大教授略歴

湖風会 総務・名簿管理 合同委員会メモ 他

1、会社訪問(日東精工)報告

世話人をしていただいた立入副会長から報告があった。

実施日: 2010年7月7日(水) 11:30~16:15

場所: 日東精工(株) 本社・八田工場・城山工場

参加者: 15名(県大就職支援G 杉野統括、湖風会就活担当 藤本氏、都築名誉教授含む) S41Mの渡辺常任監査(立入さんと同級)からも大先輩においでいただき刺激になったと喜んでおられたとのこと。

来年度の就職については、人事部門を通じて県大に出しておくように指示をしておいたとのこと。(詳細はHPをご覧ください。)

http://h-genkikai.com/k_kaisyasyokai/100707_nitto/100707n.html

2、湖風会関連報告

松下副会長から、湖風会関連の報告があった。

- ① 本年度の県大の入学生は 591名、その内 507名から同窓会の終身会費(1万円/人)の納入があった。
- ② 5つの旧単位同窓会からの基金の統合がなされた。計 50,737,789円
- ③ 湖風会のホームページが今年4月1日に開設された。最近の1ヶ月のアクセス件数は約 2,600件。今後も追跡していく。
出来栄えのアンケート調査の結果は、スタートとしては皆さん先ず先ず満足されている。あと自分の意見や、記事をアップしたいという希望に対して、HPでは再度案内をアンケートに対する回答という形で連絡先を掲載する。
- ④ 地域支部助成金を滋賀・東海・近畿各支部に各々10万円を計上したと報告があった。
彦機会としても請求を起こしてくださいとのこと。
- ⑤ 近畿支部に支部長が未定の状態であるが、今年度は決めずに来年度若返りを含めて検討決定する予定。建築の上田さんが候補としてあがっている。
- ⑥ 滋賀・東海支部から今後会員を増やし、活動を盛り上げるためにも湖風会の会員名簿を解放していただきたいとの要望がでた。

8月21日草津まちづくりセンターにて総務・名簿管理の合同委員会が開催された。従来個人情報保護の視点が強調されすぎていたため、名簿の運用規定を改訂整備しうまく目的に沿った運用ができるような体制を組みなおそうとしている。また、名簿管理ソフトも県大の卒業生が個人で作上げたもので、その信頼性の再検証も求められている。

- ⑦ ホームページの運用に付いては、委託業者とメンテナンス・金額・責任範囲・情報の秘守義務などについて、契約が完了している。
- ⑧ 湖風会役員会の今後には、9月25日、11月27日の開催を年内の予定としている。
- ⑨ 4月12日ホームページの打ち合わせのため県大を訪問した折、時間があつたので山根教授にコンタクトをとったら、運良く1時間位面談ができた。彦機会をサポートしていただいた、内藤教授→田中教授の後をお願いする教授である。苫小牧高専→北海道大学大学院博士後期課程を修了され、修了と同時に工学博士号を取得されている。1959年11月25日生 50歳
京都大学・大学院で助手・講師を勤められ、1995年4月滋賀県立大学開校と共に助教授として着任、2002年4月に教授となられ現在に至っている。 詳細は[こちら](#)
山根教授の所見として、県大は同窓会がうまく機能していない。就職活動などで同窓会のバックアップが他の歴史のある大学に較べて見劣り学生も気の毒だし、そのことに学生たちも気づき始めている。是非バックアップして欲しいとのこと。
国領常任幹事のほうで工学部同窓会の立ち上げを考えているので、こちらのほうもサポートをお願いしておいた。
吉田会長も挨拶する機会を作るようにする。
山根教授のアドレスを松下副会長から吉田会長に連絡する。
- ⑩ 滋賀県立大学事務局から湖風会役員に宛てて、同窓会会館の建設に関し、建設に付いての湖風会としての具体的な要望、及び、建設資金として湖風会が負担できる金額についての回答を求めるメールが発信された。
又、同窓会事業の中に就職支援活動を入れて欲しいこと並びにその窓口担当者を決めて欲しい旨の要望が出ている。
年1回業界・企業研究会を開催しているが、これに積極的に参画して県大生を受け入れてくれる企業のリストアップも求められている。

3、湖風会近畿支部について（内片副会長より）

近畿支部の支部長選出に向けて会議を持ったが、結果として選任できなかった。今年度は選出せず、来年度再検討することになった。化学、及び建築科の卒業生の同窓会活動の実態がなく、まとめるのは非常に難しい。

4、学部（工学部）同窓会の立ち上げについて（国領常任幹事より）

湖風会関連の報告にあつたように、彦根工業会は手持ち資金を湖風会に拠出し、解散している。これではさみしいので受け皿として、短大の機械・化学および県大の工学部の卒業生を集約し工学部同窓会を発足させたいと考えている。

彦機会の活動も10年を超えたが新しい人がなかなか入ってこない。将来に引き継いでいくためにも県大への展開が不可欠であると思う。

手始めに化学の林さんと話をしたが、大いに賛意を得ている。

県大を巻き込むためには、先生のサポートが不可欠であるし、県大卒業生が就職している企業の協力も必要と思う。発起人に一人である杉本常任幹事の事故もあって、現在滞っているが、進めて行きたいと考えている。

5、メーリングリストの作成に付いて

吉田会長の方でメーリングリストが作成された。各自で登録をお願いします。

尚、田頭・西澤顧問、山田・藤田常任幹事は PC 環境が無いため、FAX 又は郵送で対応する。

山田さんは PC を持っておられる(?)。国領常任幹事からアドレスを吉田会長に連絡する。

6、6月6日に杉本常任幹事が脳梗塞で倒れられ、現在リハビリ中である。状況がよく判らず心配であるが、情報は田頭顧問を窓口となって戴き、個々のコンタクトは遠慮する。

7、ゴルフ同好会の活動予定（立入副会長より）

12月4日（土）に忘年コンペをオレンジシガCCで開催予定、10月下旬に案内を出す。

8、学年幹事への情報提供について

従来年3回程度、彦機会の活動状況を郵送で知らせていた。連絡を密にして総会等の協力を得るためにも継続する。次回9月初旬を目標にする。担当内片副会長。

宛先シールを藤浪から、内片副会長に郵送する。

S46Mの学年幹事田中 義郎さんが逝去されたが、後任は決まっていない。

以上

次回幹事会 日時： 平成22年10月10日（日）10：00～
場所： パナソニックリゾート大阪

● 山 根 浩 二 (やまね こうじ)

1959年11月25日生/工学部/機械システム工学科



- 職 名 教授
- 最終学歴 北海道大学大学院工学研究科博士後期課程修了(1988年3月)
- 学 位 工学博士(北海道大学:1988年3月)
- 職 歴 京都大学工学部・機械工学科・助手(1988年4月～1994年3月)
京都大学大学院工学研究科・機械工学専攻・講師(1994年4月～1995年3月)
京都教育大学教育学部・産業技術学科・非常勤講師(1989年10月～1995年3月)
京都大学大学院工学研究科・エネルギー応用工学専攻・非常勤講師(1995年4月～1997年3月)
滋賀県立大学工学部・機械システム工学科・助教授(1995年4月～2002年3月)
米国・マサチューセッツ工科大学・客員研究員(2001年8月～2002年1月)
滋賀県立大学工学部・機械システム工学科・教授(2002年4月～)
- 専門分野 内燃機関、燃焼工学、油空圧工学、熱エネルギー変換工学
- 担当科目 物理学A、動力システム、熱力学Ⅰ&Ⅱ、環境マネジメント総論、〈院〉熱システム工学、エコ・テクノロジー特論、コミュニティ・プロジェクト実習Ⅰ

□研究課題
現在、私の担当する「エネルギーと動力」分野では植物油や廃食油からバイオディーゼル燃料を製造・改質する方法とその内燃機関での利用技術の確立、太陽光や風力によるハイブリッド動力システムの有用性など環境負荷が低いエネルギー変換システムを目指した研究や、高圧燃料噴射装置の原理を応用した間欠式ウォータージェット加工システムの研究を行っている。

- 研究業績等
(代表的な学術研究論文) 1. ディーゼル機関の燃焼後期かく乱による黒煙およびNOXの同時低減に関する研究(日本機械学会論文集、55-517、B(1989))、2. スプールの油圧加速方式による高圧燃料噴射システム(同、59-559、B(1993))、3. 直接噴射式バイオディーゼル燃料機関の燃焼および排気特性に及ぼす植物油種類と高圧噴射の影響(自動車技術会論文集、Vol. 32、No. 2(2001))、4. スプールの油圧加速を利用したパルス式高圧ウォータージェット加工システム(噴流工学、Vol. 18、No. 1(2001))
(受賞歴) 1988年5月:「論文1」により日本工業新聞/フジサンケイグループ主催「先端技術論文表彰制度」・特別賞受賞、1994年4月:「論文2」により日本機械学会・論文賞受賞、2002年4月:「論文4」により日本ウォータージェット学会・論文賞受賞
(特許) 日本国特許:第2599236号(燃料噴射装置)
(著書) バイオディーゼル～天ぷら鍋から燃料タンクへ～(東京図書出版会)

□主な所属学会・役職
日本機械学会、自動車技術会、日本燃焼学会、SAE(米国)、日本ウォータージェット学会

- 地域貢献活動
(公的機関の委員等)
 - ・京都市 バイオディーゼル燃料化技術検討会委員(2001. 8～)
 - ・(社)自動車技術会 次世代燃料潤滑油委員会・バイオマス担当委員(2003. 1～)、燃料潤滑油部門委員会委員長(2006. 4～2008. 3)
 - ・(社)日本機械学会RC234主査(2007. 4～2009. 3)、同ES部門基礎教育講習会委員長(2007. 4～2009. 3)
 - ・農水省農業資材審議会専門委員(2005. 4～)
 - ・滋賀県立大学・虎姫高等学校連携講座ほか全国各地で講演多数。

□私の一言メッセージ
北海道生まれ・北海道育ちの純粋な「どさん子」です。モットーは、何事にもすぐにあきらめずに野心を持って挑戦すること「Boys Be Ambitious!」。趣味・特技は、ドライブ、スキー、スケート(とくにスピードスケートは自信あり)、サッカーです。